

第8回伊賀市総合計画審議会 議事概要

開催日時	2025（令和7）年3月27日（木） 10:00～12:00
開催場所	本庁舎 4階 庁議室
出席委員	<p>岩崎 恭彦（【1号委員】三重大学人文学部）</p> <p>久 隆浩（【1号委員】近畿大学総合社会学部）</p> <p>片桐 新之介（【1号委員】合同会社 C. SSS コーポレーション）</p> <p>朴 恵淑（【1号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター）</p> <p>奥井 公子（【2号委員】公募委員）</p> <p>成底 正好（【2号委員】公募委員）</p> <p>山本 いずみ（【2号委員】公募委員）</p> <p>高井 篤史（【3号委員】伊賀市消防団）</p> <p>奥西 利江（【3号委員】社会福祉法人維雅幸育会）</p> <p>荒井 恵美子（【3号委員】男女共同参画ネットワーク会議）</p> <p>市川 寛（【3号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会）</p> <p>加納 圭子（【4号委員】 - ）</p>
欠席委員	<p>オチャンテ 村井 ロサ メルセデス（【1号委員】桃山学院教育大学人間教育学部）</p> <p>船見 くみ子（【3号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会）</p>
議事日程	<p>1 開会</p> <p>2 新委員の紹介</p> <p>3 あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>（1）前回の審議会からの振り返りについて（第1～3章）</p> <p>（2）横断的な取り組みについて（第4章）</p> <p>（3）将来像について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自治協議会からの答申 ・将来像イメージ ・第1章「みんなの声」 ・伊賀市人口ビジョン(案) ・分野別施策に係る意見一覧 ・成果指標一覧(2025. 02. 28) ・第3次伊賀市総合計画の構成(案)及び 新しい総合計画の期間と体系(案) <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール
議事概要	<p><u>1 開会</u></p> <p>（事務局）：定刻となりましたので、ただいまから、第8回伊賀市総合計画審議会を始</p>

させていただきます。

★会議及び議事録公開の確認

(事務局)：なお、会議の公開ですが、「伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により、会議を公開し、会議の傍聴を認めておりますので、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いいたします。

また、会議録についても公開させていただきますので、ご了解よろしくをお願いいたします。

★会議成立の確認

(事務局)：本日の会議の成立でございますが、「伊賀市総合計画審議会条例」第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

★資料の確認

(事務局)：次に、資料につきましては、メールにて送付をさせていただきましたが、本日、印刷したものを置かせていただきました。

それではお手元の事項に沿って進めさせていただきます。

2 新委員の紹介

市川委員の紹介

3 あいさつ

(事務局)：会長から挨拶をいただきます。

<会長>：よろしく申し上げます。本日の議事は2つです。まず、これまでの振り返りとして第1章「はじめに」、第2章「構想」、第3章「分野別施策」、第4章「横断的な取り組み」について。

次に、将来像について、みなさんにご意見をいただきたいと思います。

4 議事

<会長>：前回の審議会の振り返りについて、そして、横断的な取り組みについて、事務局からご説明いただきたいと思います。

— 事務局 説明 —

(1) 前回の審議会からの振り返りについて(第1～3章)

(2) 横断的な取り組みについて(第4章)

資料1-1「第1章はじめに まとめ」

資料1-2「第2章 構想(案)」

資料1-3「第3章 分野別施策(完成イメージ版)」

資料2「第4章 横断的な取り組み(案)」

参考資料4「成果指標一覧(2025.02.28)」

参考資料5「新しい総合計画の体系(案)」

<委員>：資料1-1「第1章はじめに まとめ」の4ページ、「②継承と変革」に関して、DXに取り組んでいくということについては記載されていますが、GXについての記載がありません。伊賀市はゼロカーボンシティ宣言をしましたが、その意図としては、デジタル技術を用いて、環境と経済のバランスがとれた持続可能な社会を作ることだと思います。

GXについての記載としては、5段落目「また、伊賀市では」の部分で、「市民一人ひとりの意識改革や行動変容を促しながら、グリーントランスフォーメーション(GX)に励み、脱炭素社会の実現と経済成長との両立を進めます。」と入れてほしいです。

何を目指していくのかが明確になるので、是非とも検討いただきたいと思います。

<委員>：GXという文字だけでは分かりづらいので、GXについての文章を加えることを検討してほしいと思います。

<会長>：資料1-1「第1章はじめに まとめ」2ページに、GXの概念は書かれていますが、3つの指針の中にも明記すべきだと思います。

<委員>：説明を入れていただければ若い人から年配まで、理解できると思います。

<委員>：資料1-1「第1章はじめに まとめ」2ページに関して、「盆地」を強調すると、他から切り取られた環境が独自の文化を生んだようなイメージになってしまうと思います。風は外からやってきて、土は根差したものである、といった風土が混ざり合っこそ文化が形成され発展すると思います。伊賀市の特徴は忍者ですが、忍者は色々な情報を外部から集めてきていました。外のものをうまく取り入れていくのが伊賀市の特徴だと思います。

東海と近畿の両方のいいとこどりができてきたことも伊賀市の特徴だと思います。例えば、おはぎの種類にしても、東日本では黒ゴマ、西日本では青のり、その境目は伊賀にありました。そういった意味でも東日本と西日本のいいとこどりをして、融合することで独自の文化を作り上げてきた

ということがもう少し強調されると、より伊賀市の特徴が強調できると思います。

<会長>：資料2「第4章横断的な取り組み」は今回初めてご覧いただく資料になります。いかにして計画に横ぐしを通すかは、この審議会で絶えずご議論いただいていた部分になります。横ぐしの通し方に関して、市としての提案をいただきましたので、お気づきになった点についてご意見をいただければと思います。

事項(3)「将来像について」、事務局から説明いただき、その後、ご意見をいただきたいと思います。

— 事務局 説明 —

(3)「将来像について」

資料3—1「住民自治協議会からの答申」

資料3—2「住民自治協議会答申一覧」

資料4「まちづくりに関するアンケート結果等」

参考資料1「第1章はじめに」

参考資料2「伊賀市人口ビジョン(案)」

参考資料3「分野別施策に係る意見一覧(02.07 審議会での意見等)」

<会長>：事務局からの説明についてご質問があればお願いします。

<委員>：資料4「まちづくりに関するアンケート結果等」は、参考資料1「第1章はじめに」の7ページ以降の伊賀市まちづくりアンケートとつながりはありますか。

(事務局)：まちづくりアンケートとは別のアンケートです。まちづくりアンケートにつきましては、118件の回答をいただいています。

<会長>：総合計画審議会では、新しい総合計画の策定に関する審議と、これまでの総合計画に基づいた取り組みの評価をする役割があります。評価についてご議論いただく際に、まちづくりアンケートの参画度と満足度の結果も、ご参照いただくことになるかと思います。引き続きよろしく願いいたします。

他にご質問いかがでしょうか。

<委員>：参考3—1「住民自治協議会からの答申」に関して、住民自治協議会は39

ありますが、諮問については、住民自治協議会の構成メンバーにしか広がっていないと思います。個々が参画できる仕組みがあればよいと思います。

行政の役割は、まとめるのではなく、メンバーを集め、ファシリテーターを交えて企画立案をすることなどに特化できれば、行政の人材不足の解消にもなると思いますし、意見も出やすくなると思います。

満足度と参画度が弱い分野に力を入れて、解決する仕組みができればよいと思います。

<会長>：市民力や地域力の向上に関する話だったと思います。総合計画の策定の次のステップに係る話だと思いますので、事務局には、今のご意見を総合計画策定の次の段階につなげていただきたいと思います。

<委員>：資料4「まちづくりに関するアンケート結果等」に関して、eモニターの登録者が約1000人いて回答が1割しかありません、なぜ回答率が低いのですか。

アンケートの結果は、今後のまちづくりを進める中で重要になっていきますが、年齢構成などに偏りがあるかもしれません。年齢構成を考慮する必要があるのか、ないのかは一度検討していただきたいと思います。また、回答者の属性が書かれていないことが気になります。

<委員>：地域に回覧板があるので、アンケートの周知に利用できるのではないのでしょうか。

(事務局)：今回のまちづくりに関するアンケートでは、年齢の内訳は確認できていますが、eモニター登録者の半数は50歳以下です。

<会長>：eモニターの方々に多く参画いただくことは今後の課題だと思いますので、方法を検討いただきたいと思います。

これから、将来像についてご議論をいただきたいと思います。

(事務局)：将来像について、補足説明させていただきます。資料1-2「第2章構想(案)」の1ページについて、第1次伊賀市総合計画では、新市建設計画の将来像を引き継ぐということで、「ひとが輝く 地域が輝く 住みよさが実感できる自立と共生のまち」という将来像を掲げました。第2次伊賀市総合計画の将来像についても、新市建設計画の「ひとが輝く 地域が輝く」を継承し、「勇気と覚悟が未来を創る」をサブテーマとし

ました。新市建設計画は役割を終えましたが、第3次伊賀市総合計画では、「継承と変革」を今後の取り組みの視点としていますので、変えるべきところは変え、継承するべきところは継承していこうと考えています。

皆さんからいただいた意見をまとめて、ひとつの将来像にまとめていきたいと思います。

<委員>：第3次伊賀市総合計画では住民自治に関する記述が多くありますが、住民自治に関して、あまり住民に広まっていないと感じます。10年後の将来像は「住民自らが積極的に作り上げるまち」というテーマを掲げてほしいと思います。

地域社会で取り組み、自らが積極的に伊賀市を作っていく、住民の方々が自治の精神を発揮し、社会課題に取り組んでいくという観点を取り入れてほしいと思います。

<委員>：総合計画の策定に携わる中で、色々な地域の取り組みを見てきましたが、他地域で良いと思った取り組みは、京都府京丹波町の「京丹波・ぬく森のいすプロジェクト」です。行政と、町の主な産業である林業と町民が気軽に交わるプロジェクトになっています。

伊賀市でもそのような交流ができる取り組みがあるか考えましたが、「産学官」や「公民連携」など住民が参加しづらいイメージのものが多く感じました。市民の方が、自分も参加できると思ってもらえるような発信ができれば魅力が広まると思います。また行きたい、また戻ってきたいと思えるようなことが将来像に含まれたらよいと思います。

<委員>：青春とは、若いだけではない、年をとっても心に青春を持っている方はたくさんいる、と昔ある方が言っていました。地域の人々と話す中で、「昔、この桜並木を自分たちが作った」など、今でも誇りに思っている方たちがいました。それはとても大事なことだと思います。風土で躍動する伊賀市になっていただきたいと思います。

風土は原風景がもたれていると思います。昔はどうだったのか、外からの文化が入ってきてどのように変化していくのかを考えたとき、一人一人が活動に参加するハードルを下げることで新しい文化が生まれていくと思います。将来像は「原風景を見つめ直し、一人一人が輝ける伊賀の里づくり」と「国際色豊かな文化の創出」を提案します。

<委員>：将来像を考える上で、キーワードとなるのは「安心安全」だと思います。

コロナ禍が終わりましたが、それでもなお、少子高齢化などの問題もあり、人々の不安感は増していると感じます。

先日、低体重で誕生された方の写真の展示を見た際、命が誕生した瞬間は、小さな命が大事にされ、命そのものが輝いていると感じました。まちづくりに関するアンケート結果で、伊賀市の強みとして、「人のぬくもりやつながりが実感できる」という回答がありましたが、自分が大事にされているという実感ができない世の中で、伊賀の人みんながつながりやぬくもりを大事にし、それぞれの色で自分の道を進んでいけることができればよいと思いました。

安心安全をベースに、人が大事にされているから地域が輝く、学ぶ人も働く人も安心して安全に暮らせるということを考えて、皆様の言葉をいただき、将来像を考えていきたいと思います。

<委員>：人口流出を防ぎ、それぞれの人が輝くまちづくりを進めてほしいと思います。伊賀の強みである文化・観光をもとに活性化していただきたいと思います。

キャッチフレーズとしては「魅力が見つかるまち伊賀市～すべての人が輝くまちづくり～」を提案します。

<委員>：親の介護が終わったら、名張市から伊賀市に引っ越したいと思っています。困ったら相談できる窓口を自分が知っているのが、それが安心感につながると感じました。

伊賀市には困ったら相談できる窓口が地域の中に多くあると感じます。何かあった際にどこに言ったらよいか分かることが安心感につながると感じます。

市外から勤めに来ている人など、伊賀市に住んでいない人の割合が増えているので、伊賀市に住んでいる人とのバランスを考えての自治がこれからのポイントだと思います。

また、「伊賀流」という言葉について、定義がよく分からないので、伊賀流自治の特徴や他の地域と違うところを分かりやすく打ち出せたらよいと思います。

高校のときから伊賀線を使っていましたが、西岡たかさんの「うへのまち」の歌の中には伊賀市の原風景があると感じました。伊賀市の原風景のようなものを集めることができればいいなと思います。その中で、伊賀市のシンボルとなるものがあればよいと思います。忍者や芭蕉は形が見えづらいので、見えるようなシンボルがあればよいと思います。最近、市内の企業がワイナリーを作る計画や、里山を作る計画があるといった話を聞

くので、住民と企業と行政で伊賀市のシンボルになるものが作れたら楽しいと思います。

<委員>：石垣市で、エコツーリズムについて3地域で調査を行いました。「残さなければならないもの」「子や孫へ伝えたいもの」「親しい人や観光客に見せたいもの」を年代別に調べました。それらの回答の中には原風景に関する回答が多くありました。そういった調査を行うことも方法の一つだと思います。

<委員>：子どもたちが減って、学校と地域はつながりにくくなっています。子どもたちへの学習支援は重要ですが、地域がどれだけ学校と関われるかも大事だと思います。地域の大人と関わるのが子どもの成長につながると思います。

学校が地域に求めていること、地域が学校に対してやりたいことを明確にすることで、さらに連携して取り組みを進めていくことができると思います。

他地域から来た方は、伊賀は住みやすい地域だと言ってくれます。伊賀市に住んでいると良いところがなかなか見えません。伊賀市は大阪、京都、奈良、滋賀から近く、観光をしやすい地域ですので、そうした強みをキーワードにしてほしいと思います。

空き家も手軽に借りることができるようになると、さらに住みやすいまちになると思います。

<委員>：資料3-1「住民自治協議会からの答申」、資料3-2「住民自治協議会答申一覧」について、39ある住民自治協議会の中から、24の住民自治協議会から回答がありましたが、もっと回答をいただけたらよいと感じました。e モニターの回答も少ないので、もう少し市民の方に参加していただけると、色々な意見を聞けると思いました。そのためには、情報発信をして共有できる環境を整えることが大切だと思います。知っていただくことが行動を起こすきっかけになると思います。

<委員>：5年後10年後、人口減少が進んでいく中で、子どもの数も減少していきます。学校教育は子どもの人数による部分が多いです。例えば、学校の適正規模や、適正配置など、伊賀市学校みらい構想でも検討されているところでは。

「継承と変革」と書かれていますが、伊賀市の人には変革を受け入れることが苦手であると感じます。将来像はこれからもずっと考えていく必要があ

ると思います。

子どもの数が少なくなりますが、学習環境が充実したものになるよう、全市民の英知が結集される必要があると思います。

<委員>：3つの地域のキャッチフレーズを紹介します。1つ目は、兵庫県宝塚市の「わたしの舞台はたからづか」です。ワークショップから出てきた市民提案が総合計画のキャッチフレーズとなりました。まちを舞台にして輝こうという思いが宝塚歌劇と掛け合わさっています。

2つ目は、兵庫県尼崎市の「ひと咲きまち咲きあまがさき」です。人が咲く、まちが咲くということで、「ひとが輝く 地域が輝く」という伊賀市の将来像は、全国的に見ても将来像の方向性となっていると思います。

3つ目は、奈良県生駒市「自分らしく輝けるステージ・生駒」です。自己実現と、それが社会貢献・まちづくりに関わるということを組み合わせて、誰かに何かを求めるのではなく、自分のやりたいことをして社会貢献を進めていこうとしています。

生駒市のキャッチフレーズも「ひとが輝く 地域が輝く」という意味になっています。そのため、伊賀市のキャッチフレーズの「ひとが輝く 地域が輝く」は、このままでよいのではないかと思います。新しい計画を作ると、キャッチフレーズを変えないといけないと考えてしまいましたが、5年、10年続けてもよいと思います。サブタイトルを変えるという方法もあります。

伊賀市はLGBTQに優しいことが特徴としてあると思います。卒業論文でLGBTQの研究をしている学生がいました。全国の事例を調べてた中で、日本で一番LGBTQが進んでいる地域が伊賀市でした。「色々な色」というキーワードが伊賀市らしいと思います。多文化共生も先進的に取り組んでいますので、「自分色で輝く」や「いろいろな色で輝く」が伊賀市の特徴だと思います。

住民自治の仕組みも大切にしたいと思います。まだまだ住民自治協議会がどういったもので、何をすべきかが住民に共有できてないと思いますので、この仕組みを根付かせる意味でも、次の10年間は重要だと思います。

「色々な色が輝ける」ということと、「住民自治を本物にしていく」というキーワードが次の10年間の伊賀市を象徴するキーワードだと思います。

<委員>：外から見た伊賀市と、伊賀市に住んでいる人が見ている伊賀市とは違うと思います。色々な目線から見て、伊賀らしさを作っていただきたいと思います。

ピンチはチャンスに変えてほしいです。伊賀市の強みはいつも同じに感じます。忍者でどれほどインバウンドの観光客が増え、産業の面でも良くなっているのかが見えません。強みのアピールに期待したいと思います。

<会長>：将来像を変える必要があるのか疑問に思います。もし変えるならより一層強める表現を付けてもよいと思います。

多くの委員が、行政や地域の発信の弱さに問題意識を持っていると感じましたので、発信について副題として付けていただくとよいと思いました。

5 その他

<会長>：それでは、長時間にわたり審議をいただきまして、ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお戻しします。スケジュールについて説明をお願いします。

— 事務局 スケジュール説明 —

(事務局)：長時間にわたり審議をいただきまして、ありがとうございました。本日の審議会を終了させていただきます。